
九尾と鬼

キングコング

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

九尾と鬼

【Nコード】

N4583C

【作者名】

キングコング

【あらすじ】

原作とは少し違った物語が今始まる…

プロローグ（前書き）

初めて投稿します 駄文では有りますが宜しくお願いします

プロローグ

この世の果てとも言える場所ですとてつもなく大きな戦いがあった…
後に妖魔大戦と言われる戦いだ

大戦は数百年にも及びその戦い大戦で多くの妖魔が倒れた

九尾の狐・玉藻

鬼族筆頭・剛鬼

四大妖魔に数えられるこの二匹もこの大戦でかなり傷ついた

その後、玉藻は木の葉の里の近くで眠りに着いた…

剛鬼は木の葉から離れた村の近くで体を休めた

その時木の葉の忍が玉藻の眠りを妨げてしまい九尾の襲撃という大惨事となってしまった

そこで四代目が命を賭け自身の息子のうずまきナルトに封印する

木の葉から少し離れた所にある村では鬼が暴れ、村を壊滅させたのだ

その村でその日に生まれた赤ん坊・風鈴寺シヨウは鬼に気に入られその身に鬼を宿す事になった…

それから3年の月日がたった

シヨウは木の葉の上忍に拾われ木の葉に来ていた

その上忍も先日任務中に殉職し一人暮しだが明るいいい子に育って居た

ナルトは里の人々により迫害を受けて居たが三代目火影や名家の者達おかげで元気に育っていた

ある日、そんな二人が出会った…

『君、何で泣いてるの？？』 ショウはナルトに尋ねた

『君も、俺の事虐めるってば？？』

ナルトは泣きながら答えた『虐めたりなんかしないよ？そうだ？僕と友達になろうよ？』

『あんた、誰だってば？？』 『あ、まだ名前を言っ^て無かつたね

僕は風鈴寺シヨウ、シヨウって呼んでね』 『俺は、うずまきナルトだってばよ？』

これが二人の出会いだ

第2話

それから数年ナルト達は毎日のように修行し火影直属の暗部（以下火暗）となっていた

木の葉の里の近隣の森 『フツ、この日向のガキを売れば俺は一気に大金持ちになれるぜ』

木の葉の中忍ミズキだ

手の中には縛られた女の子が居る眠っているようだ

『ミズキ先生、何してるんだってば？？』

『お、お前はナルト君か 君こそ何をしてたんだい？？』

ミズキは一瞬焦るが相手がアカデミー生と解り冷静になったみたいだ
『修行だってばよ！！俺ってば卒業試験一回落ちてるから次こそ受かりたいってばミズキ先生その娘どうしたってば？？』

『くつ、見られたからには死んでもらわないとなあ！！』

ミズキはクナイを取り出しナルトに投げようとするがそれは叶わなかった

後ろから来たシヨウの跳び回し蹴りが綺麗にミズキのこめかみに直撃し意識が飛んでしまったからだ

『ナルト、油断してたら駄目だろ』

『助かったってばよシヨウ所でこの子誰？？』

『ハア…やっぱり気付いて無かったか…良く見てみるよ 日向ヒナタ俺らと同じ年のアカデミー生だよ』

そういわれナルトは確認する

『あつ！！本当だってばよ！！』

『ったく…俺はジイさんに報告しとくから、お前はその娘家に送ってやれ』

『解ったってばよ！！』

ナルトの言葉を聞くとシヨウは瞬身の術で姿を消したそして、ナルトはヒナタを背負い日向家へと向かった日向家へ着くと所々で円形

に削れた地面が見えた

『な、何だつてば??これ…汗』

実は、これは日向家頭首日向ヒアシが愛娘ヒナタが掠われた事で暴走した結果だ

『ヒナタを掠ったのは貴様かあゝ!!』

チャクラ全開で現れたヒアシ目の前にはヒナタを背負ったナルト…ヒアシの思考回路

犯人は現場に戻る+ヒナタを背負っている!!犯人!!壊れています…汗

『ヒナタを返せえゝ!!』

『う、わっ、ちよっ、オツチャン、ストップ!!』

次々と繰り出される掌呈を必死に交わしながら言っがもちろんナルトの言葉は聞こえる筈もない

『問答無用ゝ!!八卦掌・回天!!』

『う、うわゝ!!』

日向家頭首の回天を喰らい後ろに吹っ飛ぶナルト&ヒナタ

『きゃっ、な、何??』

ヒナタが目を覚ましたようだ

『あ、ヒナタ大丈夫だつてば??』

『え、あ…、ナ…、ナルト君…だ…大丈夫だよ…痛!!』

ナルトが目の前に居たので真っ赤になるヒナタ
どうやら、先程の衝撃で足を挫いたようだ

それを見たヒアシは

『貴様あゝヒナタに何をするゝ!!』

怪我させた本人…

『八卦・剛打掌!!』

『くっ霸道撃!!』

ナルトも手にチャクラを貯め放出しながら掌呈を放つがやはり名家の力、ナルトが押し負ける…

『ぐっ…』

『風鈴時流・剛旋風!!』

『ったく、帰るのが遅いから心配して来てみたら…何が起こってるんだ??』

シヨウが心配して戻って来たようだ

先程、シヨウの剛旋風を喰らい吹っ飛ばされたヒアシだが、すぐ立ち上がった

『ヒナタ、オツチャン止める方法って知ってる??』

『えっ…う、ううん、解んない…ごめんなさい…』

いきなりシヨウに質問され、ヒナタは驚いていた

その時、『娘を返せえ!!』

ヒアシが襲ってきた

『どうするってば?? シヨウ??』 『解らん!! とりあえず気絶させる!!』

シヨウがそういった時…

『八卦・激烈掌!!』

『風鈴寺流・守の巻・螺旋!!』

シヨウが螺旋を描くようにヒアシの掌呈をかわし懐に入る、そして

『風鈴寺流・攻の巻・巖撃!!』

螺旋からの回転力をそのまま、肘打ちを当てる!!

『ナルト!! やれ!!』

『わかったってばよ!! 駿攻!!』

するとナルトから目で確認出来る程のチャクラが放出された

『行ってくてばよ!!』 シュツと音が鳴りナルトが消える『四連突!

!』

四つの衝撃が走り、ヒアシは気絶した

『ふう…終わったってばよ』

『まだだ、ヒナタどうするよ??』

『ヒナタに決めてもらうってば』

『ヒナタどうする?? 俺ら実力隠さなきゃならない、だから選んでくれ記憶を消すか仲間になるか』

『え、私わ……仲間になる』

『そうか…解った、じゃあ、これから宜しくな』

『頼むってばよ』

こうして、3人に友情が芽生えた

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4583c/>

九尾と鬼

2010年10月11日13時49分発行